

3. 現地調査

注意：クマが出没した場所へ調査に入ります。クマと遭遇することもあるので常に注意しながら活動しましょう。

(ア) 被害地域での情報収集

- ① 通報のあったエリアでの被害物（誘引物）の特定（確認）と被害の程度（P39を参照）を確認
- ② 被害作物周辺の痕跡を探す
- ③ 足跡やフンなどの痕跡から個体数や大きさ、出没頻度などを推測する。たとえば、侵入ルートからの足跡が誘引物まで一直線に向かっていたら、その誘引物がクマにとって強烈な誘引性を持っていることが考えられる。

■ 現地調査に役立つ痕跡一覧

足跡	大きさや数から個体数や個体の大きさを予測可能。土が柔らかい場合は、足跡の周囲が崩れて本来より大きな足跡に見える。大きさを測る場合は、全体の足跡の底面にあたる部分を計測。長さ約17cm、幅約12cm以上は成獣とみてよい。
フン	量、個数、内容物などから誘引となっているものやクマの執着度合を予測する。フンをする場所はクマが安心して居る場所でもあり、滞在時間が長いことも予想される。そのため、フンの個数が多ければ執着が進んでいる可能性が高い。またフンの大きさで、出しているクマの大きさがある程度予測できる。クマのフンの特徴は、食べたものがほとんどそのまま出るのが特徴で、いわゆる排泄物としてのにおいはほとんどない。においをかいで「臭い」と思った場合は、クマ以外の動物のフンの可能性が高い。
被害作物	被害作物＝誘引物となる。歯型や被害状況からクマの大きさや種類を予測することができる。
けもの道	被害エリアと生息地を結ぶ侵入ルート（対策につながる大切な情報）。頻繁に利用しているけもの道は、草が倒れきれいな道ができている。このような場所は他のクマにとっても安心して通れるルートとなるため、複数頭のクマが利用しており、出しているクマが1頭ではないことが推測される。
樹木被害	皮はぎ・クマ棚・枝折れ・爪痕。爪痕からクマの大きさがある程度予測できる。クマ棚は時期やクマの個性、年度によってもでき方が違うため、クマ棚が多い＝クマが多いとは限らないため注意が必要。
体毛	存在を裏付ける証拠として利用できる。体毛の色が黒いことが最大の特徴だが、カモシカの中には黒っぽい体毛を持つものもいるので、注意が必要。体毛だけでなくその他の痕跡と合わせて複合的に判断する必要がある。
におい	存在を裏付ける証拠として利用できる。においが残っている場合は、比較的近い時間帯に、そこにクマがいた可能性が高い。リスクマネジメントの観点からもにおいは活用できるため、有害捕獲されたクマのにおいを覚えておくとよい。



足跡（後ろ足）



フン

（食べたものがほぼそのまま出てくる。時間が経つほど表面から黒くなる。写真は柿のフン）



爪痕



トウモロコシ被害

（被害は広範囲で、トウモロコシの皮はきれいにむかれているのが特徴）



スイカ被害

（破壊的に食べる。周囲の藪に持ち込むことも）



クマ棚

（円座ともいう。樹上に枝が積み重なる）

■ 間違えやすいその他の動物の痕跡

		
<p>タヌキの食べ跡 (茎を倒して食べるが、土がついた部分は食べない)</p>	<p>ハクビシンの食べ跡 (茎を斜めに倒し実を食べる。茎は倒れない)</p>	<p>ハクビシンによるスイカの食べ跡 (割らずに顔を突っ込んで中身を食べる)</p>
<p>※出典：農林水産省 野生鳥獣被害防止マニュアルーハクビシンー平成 20 年 3 月版より抜粋</p>		
 <p style="text-align: right;">撮影：大槻晃太</p>	 <p style="text-align: right;">撮影：今野万里子</p>	 <p style="text-align: right;">撮影：今野万里子</p>
<p>イノシシのフン (親指大の粒が固まった形をしている)</p>	<p>サルのフン (形や色は、食べ物によって異なるが、太さは 2~3cm ほどで臭い)</p>	<p>タヌキの溜めフン (タヌキは複数頭が一か所の糞場を利用するため、量が多く見えるのでクマと間違えることがある)</p>

(イ) 出没地点への侵入ルートを含めた周辺環境の情報収集

- ① 被害作物周辺の誘引物や他の被害を探します。
- ② 上記の情報などから被害エリアまでの侵入ルート（川、林、藪など）の特定を行います。
※侵入ポイント＝シシバイバイの設置場所に必要、侵入ルート＝花火の追い上げ方向の検討に必要

(ウ) 必ず被害調査マップを作ろう!!**① 調査マップのメリット**

現場調査記録用紙（P39）だけでなく拡大した住宅地図や無地の用紙に様々な情報をフリーハンドで書き込むことを習慣にしましょう。一つ一つの情報を自らが用紙に書くことで細かな痕跡の発見と、エリア全体を広域的かつ立体的に理解することにつながります。これらは、のちに被害調査マップの分析をもとに、対策を検討する場合にとっても大切な資料になることはもちろんのこと、現在出没しているクマの地域への執着レベルを推し量るためにも重要な資料となります。

② 記入のポイント

河川、林帯、今回の誘引物、他の季節の誘引物、森、住宅、道路、移動の障害となる段差や構造物、移動ルートなど様々な情報を色分けしながら記入することで視覚的な理解度を高めることができます。（物理的な要因）

→森から被害ポイントまでの侵入ルートの環境や距離からクマの行動をイメージすることができます。（クマの心理的な要因）

③ 写真記録

写真は現場の情報をリアルに記録できるツールです。記録資料の不足が起きないようにしっかり撮影しましょう。

これらの調査・対策の資料は、市町村担当者的人事異動による情報の引継においても大変役立ちます。撮影のポイントは以下の通りです（次ページの図を参照）。

- A) 被害に合った誘引物その物（痕跡から出没の種を判別することはもちろん、個体の情報を蓄積する：○）
- B) 誘引物周辺（周辺の状況を大枠で捉えます：○）
- C) 侵入ルートを含むエリア全景（被害地点と周辺の建物や林帯などの環境を含めて、広域的に状況をとらえます：○）
- D) 林帯からの侵入口や足跡・獣道などの移動ルート（赤線）



(エ) その他

補足的に以下の内容を確認することが、被害（目撃）の全体像把握につながる場合があります。積極的に聞き取りを行いましょう。

- ① 被害（目撃）地域の過去数年間の被害（目撃）状況と対策の有無（いつ、どんな被害があつて、どんな対策を行ったか）
- ② 実施した対策の効果は（実施した対策の評価を行い、次につなげましょう）
- ③ 被害（目撃）がいつ頃から起きていたのか（数年前から？今年初めて？何月頃から？）。
- ④ 1年を通してどのような作物に被害が発生しているのか（季節による誘引物の流れを把握することで被害を予防することもできる）。
- ⑤ 区長さんや地域のリーダーに活躍してもらい、情報を効率よく収集しましょう。
- ⑥ 地域住民のヒアリングを通じてクマの被害（目撃）に関する地域の特性やクマに対する地域住民の感情面を感じとりましょう。



クマ剥ぎ被害（西会津町）



ニワトリ被害（西会津町）